

県 営 土 地 改 良 事 業 計 画 書

〔 ため池 〕

飯田沼地区 土地改良事業

茨 城 県  
関 東 農 政 局

# 目 次

第1章 目 的 .....	1
第2章 地域及び地積 .....	1
第1節 地 域 .....	1
第2節 地 積 .....	2
第3章 現 況 .....	3
第1節 気象及び海象 .....	3
1. 一般気象 .....	3
2. 特殊気象 .....	4
3. 海 象 .....	4
第2節 土地状況 .....	5
1. 地形、土壌及び侵食の程度 .....	5
2. 土地分類 .....	5
3. 土地利用の状況 .....	6
4. 土地所有の状況 .....	7
第3節 水利状況 .....	8
1. 用水状況 .....	8
2. 排水状況 .....	11
3. 河川状況 .....	11
第4節 道路概況 .....	11
1. 道路概況 .....	11
2. 主要道路一覧表 .....	11
第5節 地域農業の概況 .....	12
1. 産業別就業人口 .....	12
2. 農業経営体数並びに平均経営耕地面積 .....	12
3. 農業の動向及び主要作物作付状況 .....	13
第6節 地域環境の概況 .....	14
第4章 一般計画 .....	15
第1節 事業計画の要旨 .....	15
1. 要 旨 .....	15
2. 事業別面積 .....	16

第2節 営農計画及び土地利用計画 .....	17
1. 営農計画の概要 .....	17
2. 土地利用区分 .....	17
3. 作付方式 .....	18
4. 生産計画 .....	19
5. 労働改善計画 .....	20
6. 級地別土地利用区分 .....	20
7. 土地配分計画 .....	20
第3節 用水計画 .....	21
第4節 排水計画 .....	21
第5節 道路計画 .....	21
第6節 農用地造成計画 .....	21
第7節 洪水調節計画 .....	21
第8節 干拓計画 .....	21
第9節 農用地整備計画 .....	21
第10節 ため池改修計画 .....	22
第5章 主要工事計画 .....	24
第1節 用水施設 .....	24
第2節 排水施設 .....	24
第3節 道路及び索道 .....	24
第4節 農用地造成 .....	24
第5節 洪水調節施設 .....	24
第6節 干拓施設 .....	24
第7節 農用地整備施設 .....	24
第8節 ため池改修施設 .....	25
第6章 附帯工事計画 .....	27
第7章 工事の着手及び完了の予定時期 .....	27
第8章 環境との調和への配慮 .....	28
第9章 事業費の総額及び内訳 .....	29
第10章 効 用 .....	30

第11章 関連する事業 .....	31
第12章 現況・計画図面 .....	31

## 第1章 目 的

### (1) 必要性

本ため池は、茨城県の桜川市東飯田に位置し、地域の重要な農業水利施設である。しかし、ため池は江戸時代以前に築造されたと推測され、現在までに様々な施設が整備されてきたものの、経年劣化により堤体の崩落及び既設余水吐の機能不足等が懸念される状態にある。

また、ため池決壊時の浸水想定区域内に多数の人家があるため、本ため池は防災重点農業用ため池に指定されている。

よって、上記の現況を改善すべく劣化対策、耐震対策及び豪雨対策の観点から、堤体、取水施設及び附帯構造物の改修整備を行うことにより、農地・農業用水施設及び人家の被害除去といった防災安全度の向上及び安定した農業用水の供給を図るとともに、良好な維持管理が可能で、かつ地域住民にも親しまれるような施設として整備を行い、農業経営基盤の強化を図るものである。

### (2) 緊急性

上記より、早急に対策しなければならない内容は下記の通りである。

#### ①豪雨対策について

本ため池の既設余水吐では、計画洪水量を吐ききれず雨水を安全に放流することができないため、堤体からの越水を防止するための整備を必要とする。

#### ②耐震対策について

ため池堤体の安定計算を行った結果、堤体の安全率が確保できないため、堤体を整形し、堤体法面が安定するよう鋼矢板による護岸工法により整備を必要とする。

#### ③劣化対策について

本ため池の取水放流施設(斜樋)による劣化状況評価では、補修・経過観察となっているが、余水吐を新設する際、取水施設と余水吐を一体化させる計画であるため、各ゲート類も全て改修を必要とする。

以上から、農業用水施設等への被害を未然に防止するとともに、地域住民の安全を確保するために、早急なため池改修が期待される。

## 第2章 地域及び地積

### 第1節 地 域

(第1表)

事業名	地 域
ため池	茨城県桜川市東飯田

第2節 地 積

(令和6年12月現在) (第2表)

事業名	現況地目	田 (ha)	畑 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
	市町村名							
ため池	桜川市	3.2	—	—	—	—	3.2	農家台帳及び現地調査による
計		3.2	—	—	—	—	3.2	

### 第3章 現 況

#### 第1節 気象及び海象

##### 1. 一般気象

(第3表-1)

観測所名	下館観測所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	H.6年～R.5年	4月～9月	10月～3月		
平均	気温 (°C)	21.4°C	8.1°C	14.8 °C	
降水量	平均 (mm)	769.0mm	439.0mm	100.7 mm	
	基準年 (mm)	—	—	— mm	
降水日数	平均 (日)	73.0日	43.0日	9.7 日	
	基準年 (日)	—	—	— 日	
根 雪 期 間		月 日 ～ 月 日 日間			
無 霜 期 間		月 日 ～ 月 日 日間			
最 多 風 向		WNW	最大風速 (風向)	19.3m/s ( S )	最多風向発生時期 1月～4月 最多風速発生年月日 H24.4.3

2. 特殊気象

(第3表-2)

観測所名 門井気象観測所	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
H.6年 ~ R.5年																
最大日雨量(mm)	183.5	R1.10.12	1/23	183.0	H16.10.20	1/23	158.0	H23.7.28	1/11	149.0	H21.9.11	1/9	145.5	H20.8.28	1/8	
最大2日連続雨量 (mm)	203.5	H20.8.28 ~8.29	1/17	200.0	H26.10.5 ~10.6	1/15	196.0	H16.10.19 ~10.20	1/14	193.0	H26.7.28 ~7.29	1/13	190.0	R1.10.11 ~10.12	1/11	
最大3日連続雨量 (mm)	241.5	H20.8.28 ~8.30	1/34	217.0	H23.7.28 ~7.30	1/17	206.0	H16.10.19 ~10.21	1/13	200.0	H26.10.5 ~10.7	1/11	192.5	R1.10.12 ~10.14	1/9	

3. 海 象 該当なし

第2節 土地状況

1. 地形、土壌及び侵食の程度

(第4表-1-1)

事業名	地目	田						畑・その他						受益地標高(m)		備考		
		傾斜区分	1/1,000以下	1/1,000~1/100	1/100~1/20	1/20~1/11.5	1/11.5以上	計	3°以下	3°~8°	8°~15°		15°~20°	20°以上	計		最高(TP)	最低(TP)
											8°~10°	10°~15°						
	面積 (ha)	—	3.2	—	—	—	3.2	—	—	—	—	—	—	—	44.0	40.0		
	比率 (%)	—	100.0	—	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—				

(第4表-1-2)

項目 土壌統(区)名	土 壤 統 ( 区 ) 区 分 一 覧 表											面積 (ha) 事業名 ため池	備考
	土 壤 断 面								堆積式	母材			
	色	腐植層	礫層	酸化物沈澱物	土性			泥炭層及びクライ層					
					表層(1層)	下層(2層)	(3層)						
	面積 (ha)												
細粒灰色低地土壌	灰褐/灰	なし	なし	含まない	LiC	SiC	CL	なし	水積	非固結堆積岩	2.3	鴨島統 Km j	
厚層黒ボク土壌	黒褐/黒褐	全層	なし	含まない	CL	CL	CL	クライ層50cm以下	水積/水積	非固結火成岩 非固結堆積岩	0.9	八木橋統 Ygh	
計											3.2		

2. 土地分類

該当なし

3. 土地利用の状況

(令和6年12月現在)

(第4表-3)

事業名	土地利用別 市町村名	耕地						山林		採草 放牧地	原野	その他	計	備考
		水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他の 樹園地 (ha)	用材林 (ha)	薪炭林 (ha)					
ため池	桜川市	3.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.2	
	計	3.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.2	

4. 土地所有の状況

(令和6年12月現在) (第4表-4)

事業名	所有別		個人有	法人有	市町村有	都道府県有	国有	その他	計	備考
	区分									
ため池	面積 (ha)		3.2						3.2	
	受益者数 (人)		—						—	
	筆数 (筆)		9						9	
	権利関係		—						—	
	備考 (関係戸数)		6						6	

### 第3節 水利状況

#### 1. 用水状況

本地区は、主に霞ヶ浦用水により水を供給している状況であるが、地区の一部分のエリアについて水量が不足しているため、飯田沼より地区内の用水機場へ水を送水し、その水を汲み上げ不足分の受益面積を賅っている状況である。

##### (1) 用水系統

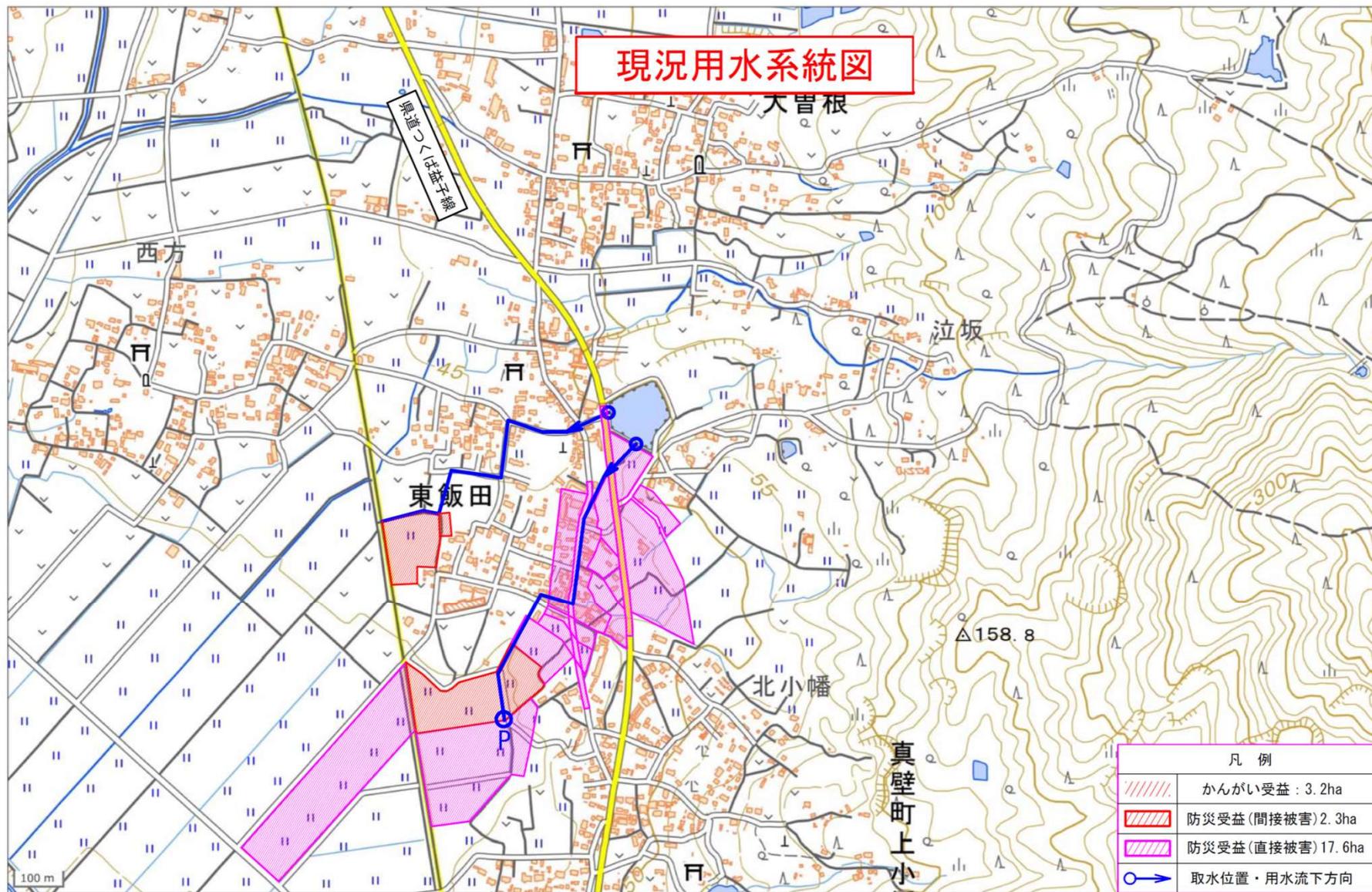
別紙「現況用水系統図」参照

##### (2) 用水施設

##### (ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

事業名	項目 施設名	かんがい面積						計		水利権		慣行水利権		延べ取水量	備考
		500ha以上		500ha未満～100ha		100ha未満		箇所	ha	箇所	m <sup>3</sup> /s	箇所	m <sup>3</sup> /s	m <sup>3</sup> /s	
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha								
ため池	貯水池					1	3.2	1	3.2					—	
	井堰					—	—	—	—					—	
	自然取入口					—	—	—	—					—	
	揚水機					—	—	—	—					—	
	その他					—	—	—	—					—	
	計					1	3.2	1	3.2					—	



(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項目	施設名 又は 箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模 (千m3)	新 設 年 又は 更 新 年	改修を必要 とする理由	備 考
	施設名							
ため池	貯水池	飯田沼	3.2	土堰堤(鋼矢板)	18.0	1996年 堤体・取水工一式 改修	堤体の安定不足 余水吐の機能不足	
	井 堰							
	自然取入口							
	揚水機							
	用水路							
	その他							
	計			3.2		18.0		

( 3 ) 用水に関する被災状況 該当なし

( 4 ) ため池決壊の場合の想定被害状況

(第5表-3-3)

事業名	ため池名	想定被害面積 (ha)				想定被害額 (百万円)						備考
		田	畑	その他	計	作物	農地	農業用施設	公共施設	家屋その他	計	
ため池	飯田沼	0.55	0.05	4.50	5.10	1,460	4,206	100,670	24,027	13,188	143,551	想定被害額は令和5年度換算
	計	0.55	0.05	4.50	5.10	1,460	4,206	100,670	24,027	13,188	143,551	

2. 排水状況 該当なし

3. 河川状況 該当なし

#### 第4節 道路現況

1. 道路概況 該当なし

2. 主要道路一覧 該当なし

## 第5節 地域農業の概況

### 1. 産業別就業人口

(第7表-1)

項目	総数 (人)	第1次 産業 (人)	第2次 産業 (人)	第3次 産業 (人)	備考
市町村名					
桜川市	21,290	1,639	7,988	11,663	令和2年 国勢調査
比率(%)	100.0	7.7	37.5	54.8	

### 2. 農業経営体数並びに平均経営耕地面積

(第7表-2)

項目	農業 経営体数 (経営体)	組織形態別経営体数(経営体)				1経営体当たり 平均経営耕地面積(ha)				備考
		団体経営体 (法人)数	団体経営体 (非法人) 数 (地方公共団 体・財産区 等)	法人化して いない 経営体数	個人経営体 数	田	畑	樹園地	その他	
市町村名										
桜川市	1133	18	3	1,112	0	2.3	2.1	0.7	—	農林業 センサス (2020年)
比率(%)	100	1.6	0.3	98.1						

3. 農業の動向及び主要作物作付状況

(第7表-3)

項目	平成27年 (A)					令和2年 (B)					動向						
											増減率 (B) / (A) × 100						
農業 経営体 数	団体 経営体 (法人) 数	団体 経営体 (非法人) 数	法人化 してい ない経営 体数	個人 経営体 数	計	団体 経営体 (法人) 数	団体 経営体 (非法人) 数	法人化 してい ない経営 体数	個人 経営体 数	計	増減率 (%)	団体 経営体 (法人) 数	団体 経営体 (非法人) 数	法人化 してい ない経営 体数	個人 経営体 数	計	
	経営体数 (経営体)	20	2	1,582	2	1,604	経営体数 (経営体)	18	3	1,112	0	1,133					
	比率 (%)	1.2	0	98.6		100	比率 (%)	1.6	0.3	98.1		100	90	150	70		71
階級別 農業 面積	1.0ha 未満	1.0ha ～ 3.0ha	3.0ha ～ 5.0ha	5.0ha 以上	計	1.0ha 未満	1.0ha ～ 3.0ha	3.0ha ～ 5.0ha	5.0ha 以上	計	増減率 (%)	1.0ha 未満	1.0ha ～ 3.0ha	3.0ha ～ 5.0ha	5.0ha 以上	計	
	経営体数 (経営体)	798	596	79	131	1,604	経営体数 (経営体)	563	389	65	116	1,133					
	比率 (%)	49.8	37.2	4.9	8.2	100.0	比率 (%)	49.7	34.3	5.7	10.2	100.0	71	65	82	89	71
耕地面積	田	畑	樹園地	その他	計	田	畑	樹園地	その他	計	増減率 (%)	田	畑	樹園地	その他	計	
	面積 (ha)	2,563.0	1,235.0	25.0		3,823.0	面積 (ha)	2,334.0	1,111.0	32.0		3,477.0	91.1	90.0	128.0	-	90.9
	経営体当 り (ha)	1.7	1.2	0.3		3.2	経営体当 り (ha)	2.3	2.1	0.7		5.1	135.3	175.0	233.3	-	159.4
主要作物 作付状況	作物名	水稻	小麦	そば	計	作物名	水稻	小麦	そば	計	増減率 (%)	水稻	小麦	そば	計		
	作付面積 (ha)	1,924.0	628.0	494.0		3,046.0	作付面積 (ha)	1,778.0	105.0	115.0		1,998.0	92.4	16.7	23.3	-	65.6

出典：2015、2020年農林業センサス

## 第6節 地域環境の概況

### ① 自然環境

桜川市は、茨城県の西部に位置し、都心から70km圏内にある。市内を一級河川桜川、その他中小河川が流れ、利水関係に恵まれた水田地帯である。

気候は、平均気温が14.6℃、かんがい期である5～8月の平均気温は22.8℃と比較的温暖な気候にあり、年間平均降水量は1,189mmである。

本地区は、筑波山の北側にあり、風光明媚な地域にある。

### ② 社会環境

桜川市は、水郷筑波国定公園などの観光資源が豊富であり、これらを活かした観光産業が盛んである。また「真壁石」として知られるように歴史的に石材業が盛んな地域である。

一方で、農村地域では近年、都市部への労働力の流出により農業従事者の高齢化、農用地の遊休化、後継者不足が問題となっており、担い手への農地集積が至急の課題となっている。

## 第4章 一般計画

### 第1節 事業計画の要旨

#### 1. 要 旨

本計画ため池は、堤体の崩落及び既設余水吐の機能不足等が懸念される状態にある。  
よって、ため池等の整備事業として改修を行い、堤体の安全を確保するとともに、取水施設等を整備し、破堤による農地、農業施設、公共施設への被害を未然に防止し、防災安全度の向上と農業経営基盤の強化を図る。

項 目	事業を必要とする理由	改修補強工法	備 考
取水施設	①底樋ゲート及び取水ゲートの開閉不可 ②フレーム及び扉体全体に腐食	①経年劣化した底樋ゲート及び取水ゲートの改修・新設	
余水吐	①側壁にひび割れ及び部分的な粗骨材の露出 ②流入側スクリーンの老朽化(腐食及び損傷)	①機能不足である既設余水吐の改修・新設	
堤体又は基礎からの漏水状況	—	—	
堤 体	①上流側護岸が全体的に腐食、多数の腐食孔あり ②下流側法面の崩れあり	①上流側矢板護岸工の補修 ②下流側法面の整形及び矢板護岸工の新設	
その他被災歴、改修歴・ため池依存の状況等特記事項	①築造年は不明 ②平成8年、堤体及び取水工一式を改修		
他事業関連	—		

2. 事業別面積

(第8表)

事業名 土地利用区分 事業目的	農村地域防災減災事業								備 考
	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他の樹園地 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	
ため池	3.2	—	—	—	—	—	—	3.2	

## 第2節 営農計画及び土地利用計画

### 1. 営農計画の概要

本地区は、水稻を主要作物としているが、近年、米価の下落に伴い離農者が増加してきている。今後も、水稻を主要作物とすることには変わりはないが、担い手への農地集積、集約化を進めるとともに、新規需要米や加工用米の導入を図る等、収益性の向上を図っていく。営農支援については、地域の担い手、土地改良区、桜川市、県西農林事務所が連携し、水稻経営における収益性の向上を図るための支援体制を構築していく。

### 2. 土地利用区分

(第9表-1)

事業名	土地利用区分	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他の 樹園地 (ha)	小計 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
	区分												
ため池	現況	3.2	—	—	—	—	—	3.2	—	—	—	3.2	
	計画	3.2	—	—	—	—	—	3.2	—	—	—	3.2	



4. 生産計画

事業名	項目		作付面積 (ha)			作付率 (%)		単位面積当たり収量 (kg/10a)			生産量 (t)			同左生産量増減の内訳 (t)		備考		
			作物名	現況	計画	増減	現況	計画	現況	計画	増減	現況	計画	増減	面積増減		単位面積 当たり収量 増加	
	土地 利用区分																	
ため池	水田	表作	水稻	3.1	3.1	-	100.0	100.0	532	532	-	16	16	-				
		裏作																
	普通畑	春夏作																
		秋冬作																
	計																	
	合計		3.1	3.1	-	100.0	100.0											

5. 労働改善計画  
該当なし

6. 級地別土地利用区分  
該当なし

7. 土地配分計画  
該当なし

第3節	用水計画	該当なし
第4節	排水計画	該当なし
第5節	道路計画	該当なし
第6節	農用地造成計画	該当なし
第7節	洪水調節計画	該当なし
第8節	干拓計画	該当なし
第9節	農用地整備計画	該当なし

第10節 ため池改修計画

1. 計画基準雨量

観測機関名	門井気象台観測所
計画基準雨量	111.4mm/hr、253.0mm/24hr 1/200年確率雨量
計画根拠	$tP=C \cdot A^{0.22} \cdot re^{-0.35}$ ※ $t_p=28.6\text{min}$

2. 計画洪水量

集水面積	直接	8.8ha
	間接	0.0ha
	合計	8.8ha
計画洪水量	計算式	$QP=1/3.6 \times re \times A$ (合理式)  $re=116.2\text{mm/hr}$
	計画洪水量	$QP=4.109\text{m}^3/\text{s}$

3. 施設整備計画

	ため池諸元					堤 体						
	型 式	堤 高 (m)	堤 長 (m)	堤体積 (千m <sup>3</sup> )	貯水量 (千m <sup>3</sup> )	余裕高 (m)	天端巾	法面勾配		法面保護工		
現況	土堰堤	2.73	100.0	—	18.0	1.03~ 1.29	3.7~5.2	上流1:0.0	下流1:1.5	土 法		
計画	土堰堤	3.00	100.0	—	18.0	1.1	4.5~5.2	上流1:0.0	下流1:1.5	土 法(鋼矢板)		
	取水施設							余水吐				
	斜樋又は竖樋			底 樋			取水量 (m <sup>3</sup> /s)					
	構 造	径 (mm)	長さ (m)	構 造	径 (mm)	長さ (m)		計画洪水量 (m <sup>3</sup> /s)	越流水深 (m)	余水吐能力 (m <sup>3</sup> /s)	構 造	
現況	—	0.10	—	管渠	0.80	13.0	0.034	2.938	0.58	2.234	鉄筋コンクリート	
計画	—	—	—	管渠	0.80	13.0	0.034	4.109	0.40	3.130	鉄筋コンクリート	

4. 附帯施設整備計画

ガードレール            Gr-C-4E   L=200.0m

## 第5章 主要工事計画

第1節	用水施設	該当なし
第2節	排水施設	該当なし
第3節	道路及び索道	該当なし
第4節	農用地造成	該当なし
第5節	洪水調節施設	該当なし
第6節	干拓施設	該当なし
第7節	農用地整備施設	該当なし

第8節 ため池改修施設

1. 貯水池

名称		飯田沼地区				位置	桜川市東飯田					
堤 体		形式	堤高	堤長	堤端幅	堤体積	総貯水量	有効貯水量	堤頂標高	満水面標高	満水面積	有効貯水量/総貯水量
	現況	土堰堤	m 2.73	m 100.0	m 3.7~5.2	千m <sup>3</sup> —	千m <sup>3</sup> 18.0	千m <sup>3</sup> 18.0	m 49.9~50.1	m 48.3	ha 1.0	1.0
	計画	土堰堤	m 3.00	m 100.0	m 4.5~5.2	千m <sup>3</sup> —	千m <sup>3</sup> 18.0	千m <sup>3</sup> 18.0	m 50.10	m 48.3	ha 1.0	1.0
			法面勾配		法面保護工							
	現況	上流 下流	1:0.0 1:1.5	土法								
	計画	上流 下流	1:0.0 1:1.5	土法(鋼矢板)								
余水吐		形式	構造		余水吐能力	越流水深	越流堰幅	敷標高	ゲート	計画雨量	流出率	計画洪水量
	現況	越流式	鉄筋コンクリート		m <sup>3</sup> /s 2.234	m 0.58	m 2.60	m —	m —	mm/hr —	—	m <sup>3</sup> /s 2.938
	計画	越流式	鉄筋コンクリート		m <sup>3</sup> /s 3.130	m 0.40	m 6.50	m —	m —	mm/hr —	—	m <sup>3</sup> /s 4.109
取水施設		斜樋又は樋			底樋			取水量	地質	基礎処理	仮排水工	流域面積
		形式	径	長さ	形式	径	長さ					
	現況	—	m 0.10	m —	管渠	m 0.80	m 13.0	m <sup>3</sup> /s 0.034	—	—	—	km <sup>2</sup> 0.088
計画	—	m —	m —	管渠	m 0.80	m 13.0	m <sup>3</sup> /s 0.034	—	—	—	km <sup>2</sup> 0.088	

2. 堤体整備計画

項目	事業を必要とする理由	改修補強工法	備考
取水施設	①底樋ゲート及び取水ゲートの開閉不可 ②フレーム及び扉体全体に腐食	①経年劣化した底樋ゲート及び取水ゲートの改修・新設	
余水吐	①側壁にひび割れ及び部分的な粗骨材の露出 ②流入側スクリーンの老朽化（腐食及び損傷）	①機能不足である既設余水吐の改修・新設	
堤体又は基礎からの湧水状況	—	—	
堤体	①上流側護岸が全体的に腐食、多数の腐食孔有り ②下流側法面の崩れ有り	①上流側矢板護岸工の補修 ②下流側法面の整形及び矢板護岸工の新設	

第6章 附帯工事計画

該当なし

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

着手 令和 7 年度

完了 令和 10 年度

## 第8章 環境との調和への配慮

### 1. 市町村田園環境整備マスタープランの位置付けについて

桜川市田園環境マスタープランにおいて、本地区は「環境創造区域」に位置付けられている。

### 2. 具体的な環境配慮の方法について

環境情報協議会による検討の結果、工事实施に伴う周辺民家への公害及び騒音が考えられるため、対策として排出ガス対策型建設機械や低騒音型機械を使用する。

また、水生生物等を考慮して、ため池の水を一定程度残して施工する。工事期間中に万が一保全対象生物が発見された場合は工事を中断し、専門家の意見を聞き対応を検討する。

第9章 事業費の総額及び内訳

単位：千円 (第26表)

区分	事業名	ため池等整備	備考
	純工事費	80,600	
	農業用排水施設	80,600	
	測量設計費	19,200	
	用地買収補償費	15,200	
	小計	115,000	
	工事雑費	2,800	
	計	117,800	
	地方事務費	5,800	
	合計	123,600	

## 第10章 効 用

(第27表)

事業名	区 分	年総効果(便益)額 (千円)	年総増加農業所得額 (千円)	備 考
	効果項目			
ため池	作物生産効果	47,324		
	営農経費節減効果	△2,077		
	維持管理費節減効果	△3,286		
	災害防止効果	152,184		
	国産農産物安定供給効果	8,158		
	—			
	—			
	—			
	計	202,303		

総便益額(現在価値)①

202,303 千円

総費用②

140,365 千円

総費用総便益比①/②

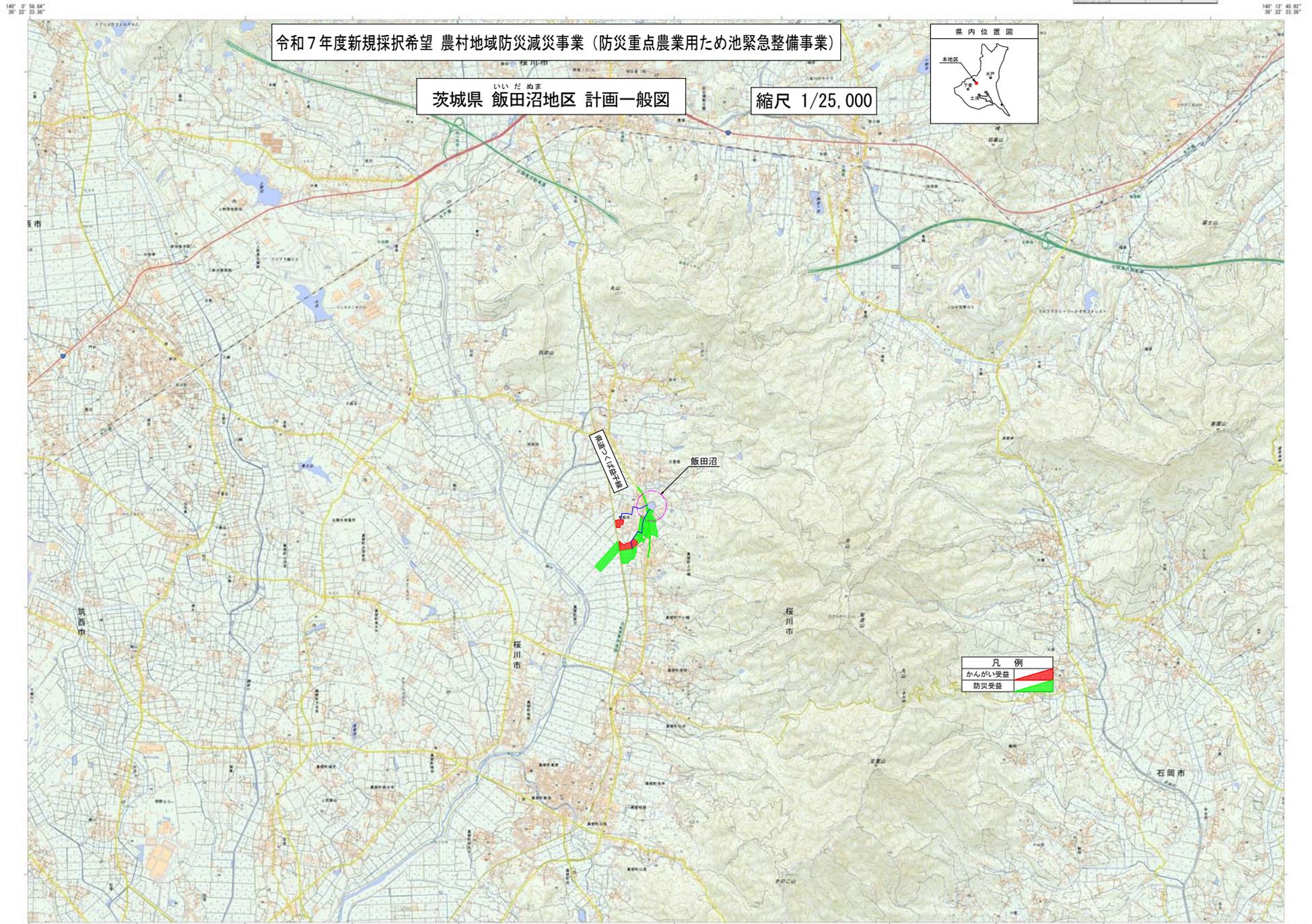
1.44

## 第 1 1 章 関連する事業

該当なし

## 第 1 2 章 現況・計画図面

1. 計画一般図
2. 計画平面図
3. 主要構造図



令和7年度新規採択希望 農村地域防災減災事業 (防災重点農業用ため池緊急整備事業)

茨城県 飯田沼地区 計画一般図

縮尺 1/25,000



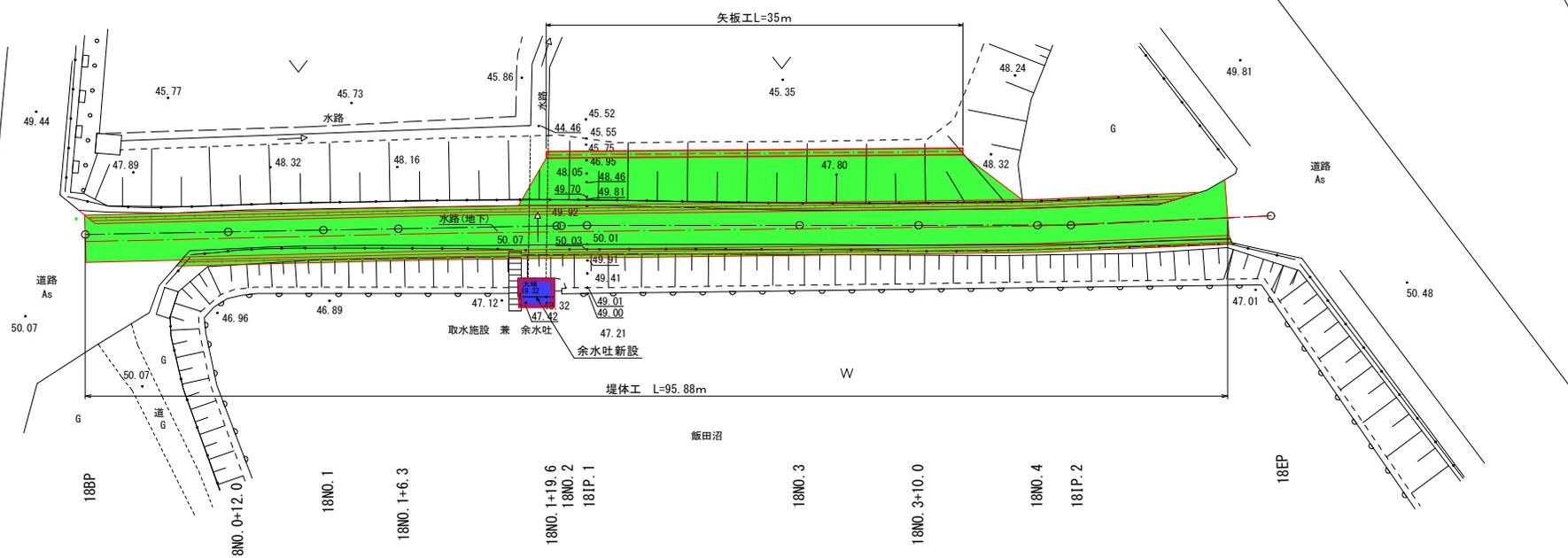
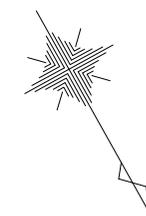
凡例	
	かんがい受益
	防災受益

1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°  
 2. 図面に付した距離は経緯度差1分ごとの距離  
 3. 高さの基準は東京湾の平均海面  
 4. 等高線及び等深線の間隔は10メートル

5. 磁気偏角は西偏約7°50'  
 6. 図式は平成24年電子地形図(25000図式)  
 7. 本図上部の枠内には、この地図の購入者が入力したものをそのまま記載しています

# 計画平面図

農村地域防災減災事業(防災重点農業用ため池緊急整備事業)飯田沼地区



凡 例	
	護岸工
	余水吐工

# 主要構造図

S=1:100

